

生徒が前向きに学習することを重視 学習計画を柔軟に見直し、意欲を引き出す



代表 / 古瀬 勇太先生

進学塾 LEAREC

所在地	: 埼玉県幸手市
指導形態	: 自立・集団
生徒の通学目的	: 受験・定期テスト
対象学年	: 小学3年生～中学3年生

インタビューのサマリ

- ✓ 『さかのぼり』を乗り越えた生徒の成果が出始めている。
ワークやプリントなどの提出物でも空欄が減り、生徒自身も手応えを実感
- ✓ 生徒一人ひとりが意欲的に学習して成績向上に繋がられるよう、社員講師が週1回を目安に『学習面談』、学生講師が『授業内外のコミュニケーション』を担当する運営スタイル
- ✓ 『学習面談』では、定期テストに向けた学習進捗の管理を主な目的としながら、生徒が意欲的に・無理なく学習できるように、柔軟に学習内容を調整
- ✓ 『授業内外のコミュニケーション』では、面談で決めた計画の進捗確認やさかのぼりに向き合う生徒の頑張りにも共感しながら、意欲を引き出す会話を実施
- ✓ 今後も、生徒の学習意欲を引き出す運営の実現に向けて、新たなチャレンジを予定

毎週の学習サイクル

週次の学習面談と日々の授業で、
生徒一人ひとりの学習進捗・意欲を促進



学習面談 (週1回目安)

テスト等に向けた計画を立て、
学習内容とペースを確認



授業

日々の学習進捗を確認し、
学習方法・学習内容の指導

面談による学習内容の調整

基礎完成⇒定期テスト対策をベースに、
学習進捗に合わせて、柔軟に学習内容を調整



atama+
全単元合格

定テ
対策演習



atama+
一部単元合格

定テ
対策演習

ICT教材を用いるからこそ、今まで以上にコミュニケーションを大切にする

atama+の導入前は、個別指導と集団指導を行っていました。『環境が人を育てる』という言葉もあり、『最高の学習環境で本物の教育を提供する』ことを目指して塾を運営をしており、その一環で映像教材を開発して家庭学習の充実を図ったり、映像を主体とした自立型の授業を試したりしてきました。

atama+の導入で、あらためて自立的な学びを目指しました。過去の『映像を主体とした自立型の授業』で、生徒とのコミュニケーションが減り、満足度が下がる経験をしていたので、**生徒が意欲的に学べるように、コミュニケーションを充実させる**ことを考えました。現在、社員講師が週1回の面談を行い、授業中や休み時間のコミュニケーションを手厚くするために学生講師も採用しました。

学習の管理ではなく、学習意欲を引き出すためのコミュニケーション

面談では、学習計画を一緒に立て、atama+の取り組みや宿題、定期テストに向けた進捗を確認します。テスト範囲の進捗が重要なので、atama+ COACHで合格状況も確認します。ただ、勉強が苦手な生徒や学習習慣が身に付く前の生徒もいるので、進捗の話だけをするわけではありません。それぞれの進捗とモチベーションを考え、「今週は宿題なしで、学校の宿題を優先しよう」など、いま頑張れる内容に集中させることもあります。**進捗管理も大切ですが、学習意欲を引き出すことをより大切に**しています。

授業内外のコミュニケーションでは、**学生講師に生徒に寄り添うことを心がけてもらっています**。生徒は一人ひとり異なるので、コミュニケーションのルールは決めていません。ただ、atama+学習では、さかのぼりによって、生徒が自分自身の苦手と向き合う機会が多いので、**生徒に寄り添う結果として、生徒の頑張りを承認する『共感』から会話が始まる**ことが多いです。

さかのぼりは成果に繋がる。そのために講師がどう生徒を導くかが大切

生徒は、さかのぼりによって自分の苦手と向き合います。苦戦してしまう生徒もいます。ただ、**さかのぼりを乗り越えた生徒は、成果がスタートしています**。ワークやプリントなどの学校の提出物でも、生徒が空欄のまま提出することが減りました。英語では文法用語で少し時間がかかりますが、理解する上で大事なことです。実際に、やり切ることで読める文章、書ける文章が増えました。

このように、やり切ることが成果に繋がります。ただ、さかのぼりの途中で定期テストが迫ってしまうこともあります。テスト範囲を合格してから直前対策に移ることが理想だとは思いますが、残りの期間ではやり切ることが難しい場面があります。そういう時は、**テストまでに残された期間内に、テスト範囲を合格し切れるだけの時間を取り組むことができるか、生徒と会話して「今はテスト対策プリントをやろう」と切り替える**こともあります。コミュニケーションの話と重なりますが、**生徒個々の状況を考えた上で、『今・何をやろう』と私たち講師が導くことが大切だ**と考えています。

生徒がより意欲的に学習できる場づくりに向けて

勉強が得意な生徒も、苦手な生徒も、もっと頑張りやすい場づくりに向けて、もっと工夫できると考えています。現在は、『集団指導×atama+演習を行う講習』と『さかのぼりの乗り越え方の生徒間共有』に取り組んでいくところです。

個別最適化された演習と自立的に学習する方法を身に付けることも大切ですが、集団指導の『**クラス全体で頑張る**』場の力も、**生徒のためになる**と考えています。講習の期間は学校の授業がストップするので、この期間ならではの取り組みを実施しやすいです。クラスの一体感を生むために、講習会で『集団指導とatama+演習』の授業を実施予定です。

また、クラス一体で頑張る雰囲気と近いことですが、『atama+のさかのぼりを、どう乗り越えたか』について、感想を書いてもらって生徒同士で共有することにも取り組んでいます。**クラスの友達が頑張ったこと、その頑張りが成果に繋がっていることを知ることは、自分自身も頑張ろうという気持ちに繋がります**。もともと集団指導と一緒に受けていたこともあり、生徒同士の仲が良いので、こうした友達同士の頑張り合いを促そうと考えています。

単元合格に苦戦する児童へ 目標単元を柔軟に変更し学習意欲を引き出す



代表／与古田 英明先生

学習塾ピアテック

所在地 : 沖縄県うるま市
指導形態 : 自立
児童の通学目的 : 学習習慣の定着
対象学年 : 年長～小学6年生

インタビューのサマリ

✓ atama+ 導入背景

「本当の意味での個別学習」を提供できるICT教材として、atama+を小学生授業へ導入

✓ 導入後の変化

- ・勉強が得意な児童は、「紙教材を何周もこなして演習量を積む」学習スタイルから、「どんどん先取りを行う」学習スタイルへ
- ・進度に遅れがある児童は、「分からない箇所でも先生へは分かったふりをしてしまう」学習姿勢から、「分かるまで取り組み続ける」学習姿勢へ

✓ 苦戦する児童へのコミュニケーションの工夫

- ・なかなか単元合格できない場合には、気持ちを切り替えて学習を継続するために、サクサク解き進められる単元へ短期目標を変更
- ・短期目標から一度外した単元は、「児童の調子が良い日」または「先生が付きっきりで指導できる日」に再チャレンジ

atama+ 導入前の課題



分かっている問題を
またやるのか…



何回も質問したから、
また聞きにくい…



採点やプリント選び
でいっぱい

atama+ 導入後の変化



どんどん先に進めて
楽しい！



分かるようになるまで
取り組める！



コミュニケーション
が業務の中心に！

「本当の意味での個別学習」の提供のために、atama+を導入

atama+の導入前は、紙教材を使った指導を行っていました。コロナ禍で休講にせざるを得ない期間に、教室の各児童の下駄箱を介して家庭学習プリントのやり取りをしていたのですが、このやり方では家庭も塾も負荷が高く、プリントのやり取りを代替できるようなICT教材を探し始めました。

ICT教材の選定時には、「**本当の意味での個別学習**」を提供できることを最重視しました。5種類以上のICT教材を試しましたが、atama+の「**次は何の学習をすべきか、一人一人に合った内容を提示してくれる**」という特徴が最も希望に合致し、導入を決定しました。

これまでは紙教材を「2周するか」「3周するか」を講師の肌感覚に任せていましたが、現在はatama+のAIによって、児童に合わせた適切な回数の演習ができているように感じます。

児童一人一人に合った学習進度、コミュニケーションの充実を実現

atama+導入後、勉強が得意な児童にも、進度に遅れがある児童にも、先生にも良い変化がありました。

勉強が得意な児童は、「プリントを何周もこなして演習量を積む」学習スタイルから、「**どんどん先取りを行う**」学習スタイルに変わりました。無駄な演習をさせずに、予習に時間を使えるようになったことが、導入後の学習スタイルで最も大きく変わったことです。

進度に遅れがある児童は、分からないところを先生に何度も聞くことや、同じプリントを何度ももらうことを遠慮してしまい、分かったふりをしてしまうことがありました。ですが、atama+学習では機械が相手なので、**先生の手間を気にせずに分かるまで学習に取り組むことができます**。また、**atama+では分かったふりをするのができないので、先生も児童の「分からない」を見逃さずに指導**をすることができます。

また、今学習している単元を理解するために、前の学年の単元を学習させた方が良い場面であっても、児童のプライドを傷つけることになってしまうため、前の学年のプリントを先生から渡すことはできません。atama+では機械が自動で過去の単元も出していることから、児童も前の学年の問題と気づかず、学習することができています。前の学年の問題ということに児童が気づいても、先生が気持ちのフォローに入れるので、児童にぴったりの学習を提供しやすくなりました。

一方、先生の変化としては、児童に合ったプリント選びや夜中までやっていた丸付け作業がなくなり、**児童の様子を見たり、児童とのコミュニケーションを取ったりする時間を多く使える**ようになりました。

atama+ならではのコミュニケーションの工夫として、柔軟な目標変更を実施

atama+ならではのコミュニケーションの工夫として、**学習意欲を引き出すことを目的とし、短期目標の柔軟な変更**を行っています。例えば、図形の単元をなかなか合格することができず、先の単元に進めない児童については、児童のそばに行き、計算の単元に短期目標を変えています。「**苦手な単元**」から「**サクサク進めることができる単元**」に目標を変更することで、「分からなくて詰まっていた状態」から「**解き進められる状態**」に変わり、**気持ちを切り替えて学習**することができています。その場で飛ばした苦手な単元については、別日の「**児童の調子が良さそうなタイミング**」であったり、「**先生が付きっきりで指導できるタイミング**」で再度設定し、克服を促しています。

先生1人が付きっきりで指導できる児童は1度に1名のみです。そのため、クラス全体への動き方としては、苦戦している児童を回って得意な分野の単元に変えていき、付きっきりで指導することで乗り越えられそうな1名へは個別指導を行っています。

atama+では設定した短期目標内で学習する範囲を選んでくれますが、**設定した範囲内での自立学習が難しそうな場合には、先生から児童へのコミュニケーションが必須**です。

